

カナダと日本におけるオンライン情報の比較  
—多言語環境の子育てを支援するポータルサイトの構築をめざして—  
Comparison of the Online Contents in Canada and Japan;  
Development of a Portal Site to Support Raising Culturally, Linguistically Diverse  
Children

鈴木庸子, 国際基督教大学  
SUZUKI Yoko, International Christian University

**Abstract:** In Canada the Ontario Ministry of Education, the Ontario Ministry of Children and Youth Services, and the Toronto District School Board provide helpful information for immigrants on websites. The website offers multilingual information on not only the education of children in multilingual environments, but also the academic and practical information of detailed methods on parenting. This report examines these websites and collects user insights to develop a well-structured portal site on first language and Japanese language education for the culturally, linguistically diverse children (CLD children) in a Japanese environment.

ポータルサイトの開発 オンライン情報 多言語環境の子ども 子育て支援 トロント市  
Development of a portal site, Online contents, CLD children, Parenting support, Toronto city

## 1. はじめに

日本に在住する外国人に対して、地域のボランティアグループ、NPO、行政が日本語教育も含めて生活支援を行っており、その量と質は少しずつ充実する方向にあると考えられる。特に、子どものための支援は、母語・日本語育成の支援や学習支援が様々な形で行われている。これらの分野で今後さらにきめの細かい支援を進めるために、情報技術の分野はどのような貢献ができるのだろうか。筆者は、これまでに発信されている情報を整理し、支援者同士をつなぐポータルサイトの構築が、その一つの可能性として意味があると考えている。

カナダのオンタリオ州トロント市を武田 (2002) は「社会で子どもを育てる」都市と呼び、トロントの子育て支援が成功している条件の一つに情報が行き届いていることをあげている。また *Statistics Canada (2007)* (カナダの国勢調査) によると、トロント市は人口の約 25% が英語/フランス語以外の言語を母語とする多文化・多言語国家であり、子どもの教育においても子どもの多様性への配慮が欠かせない。本発表の目的は、このような社会的、文化的背景のあるトロント市において、公のウェブサイト上で、どのような情報提供が行われている

かを紹介し、日本の同様な行政機関のウェブサイトと比較することである。その上で、今後日本語教育を含め、母語教育、教科学習の支援を援助するポータルサイト開発の示唆を得たいと考えている。

## 2. 調査対象

今回調査したカナダオンタリオ州トロントのウェブサイトは①教育省、②トロント教育委員会、③子どもと若者サービス省の中のオンタリオアーリーイヤーズセンターである。日本の公的機関として調査したのは①文部科学省、②東京都教育委員会である。

## 3. 調査結果

オンタリオ州教育省のウェブサイトは、「生徒」「親」「教師」「行政」「ニュース」のような利用者別のメインメニューと「子育て」「24 時間保育」のようなトピック別のメニューがある。利用者別の「親」のページには子どもをどのように成功させるか、つまりどのように上手に勉強させるかが書かれた、14 言語による“Tips and Tools for Parent”が掲載されている。同時にさらに詳しい情報として様々なリーフレットや小冊子がダウンロードできる。「教師」のページにはオンタリオ州の教育カリキュラムそのものとそのカリキュラムを支える資料や方針について膨大な量の冊子がダウンロードできる。たとえば言語 (Language) のカリキュラムのところでは、次のような資料が“Resource Documents Related to this Subject”として 10 件ほどリストされている。

- Supporting English language learners: A practical guide for Ontario educators Grades 1 to 8, 2008
- Supporting English Language Learners with Limited Prior Schooling: A practical guide for Ontario educators (Grades 3 to 12), 2008
- English Language Learners / ESL and ELD Programs and Services: Policies and Procedures for Ontario Elementary and Secondary Schools, Kindergarten to Grade 12, 2007
- Many Roots, Many Voices: Supporting English Language Learners in Every Classroom, 2005
- The Ontario Curriculum Grades 1-8, English As a Second Language and English Literacy Development – A Resource Guide, 2001

次に子どもと若者サービス省の中のオンタリオアーリーイヤーズセンターのページには、センターの説明などのほかに“Library”として 22 言語による誕生から学齢期までの育て方のコツがリーフレットとしてダウンロードできる。日本語版の初めはたとえば次のようである。

「0 歳から 3 か月 初めて親になるのは大変嬉しい事: でも難しい事でもあります。最初の 3

か月はあなたは赤ん坊と共に成長し学びます。赤ちゃんにとってあなたと一緒に過ごす時間は最も重要なのです。」(Ontario Early Years Centre Website より)

次にトロント教育委員会のウェブサイトのメインメニューは教育省のように「生徒」「親」「コミュニティ」「メディア」などに分かれている。

「生徒」のページに入ると「小学校」「中学校」「成人」「国際学生」の4つに分かれ、それぞれ対象となる利用者のための情報があり、とくにオンラインで利用できる図書資料や、「カナダの地理」といった学校の科目の学習リソース、直接学習に役立てることができるツールや情報が準備されている。「中学校」「成人」のページには夜間学校、e-learning、コミュニティスクールの中の職業訓練のコース、英語のコースなどの紹介がある。

「親」のページには、まず18言語による親のための学校案内の冊子とリーフレットが用意されているほか、幼稚園の先生と幼児教育専門家がどのように授業の準備をしているかを見せるDVDを配信している。学校の安全や入学手続きなどのほかに、親と学校が関わることの重要性をうたってそれを促すページ(Community Involvement)など学校関係の情報、継続学習、グロッサリーといった英語が十分でない親を意識した親切構成になっている。とくに「Community Involvement」のページには新しい市民のための「New comer services」の情報が用意されている。教育委員会が管理する電子図書館の利用、健康のためのスポーツ情報、特別支援教育、通信簿、親の満足度に関する調査報告、(学校の)クラスサイズ、子どもの宿題の手伝い方、リテラシーのためのソフトのダウンロード、幼児教育、夜間学校などの情報にリンクされている。これらのページは、随所に情報の根拠となる解説書、報告書、研究論文がダウンロードできる。たとえば通信簿のページからはオンタリオ州の評価のシステムや方針について163ページからなる解説書がダウンロードできる。

「コミュニティ」のページでは先生の下で仕事を手伝うボランティアやチューターを募集しており「メディア」のページでは学校行事や評判のよい授業の紹介、生徒の活動が紹介されている。「私たちについて about us」のページからは教育委員会の開催のようすを映像で見ることができる。

次に日本のウェブサイトを概観してみる。まず、文部科学省のウェブサイトは「教育」「科学技術・学術」「スポーツ」「文化」の大きく四つのメインメニューに分かれており、「教育」は「幼児教育・家庭教育」「大学大学院・専門教育」「小学校・中学校・高等学校」「学校等の施設設備」「教員免許」のように教育行政の組織を中心に項目が分かれている。学校教育を離れた成人の外国人に対する日本語教育は「文化」の中の「国語政策・日本語教育」の中に分類され、文化庁の管轄となる。文部科学省の施策の根拠となる委員会報告書などはダウンロードしてすることができる。「国語政策・日本語教育」のウェブサイトには文化庁が行う日本語教育を中心とした外国人の支援事業などの一般募集情報とその報告がある。これらのページは日本語のほかに英語のページがあるが、内容と構成に違いがある。

次に、東京都のウェブサイトは「教育」「福祉・人権」「文化・スポーツ」などの13分野

に分かれており、「教育」の中には「教育相談、学校、首都大学東京、青少年育成、生涯教育、図書館」の項目が、「福祉・人権」の中には「高齢者、障害者、子育て支援、児童相談、人権、男女平等、犯罪被害者支援、東京都における拉致問題」の項目がある。ウェブサイトには英語版、中国語版、韓国語版があり、日本語版とは内容が少し異なるが、**Information for foreign residents** として、「東京都国際交流委員会」のウェブサイトにリンクが張られ、基本的な生活情報が提供されている。東京都教育委員会のホームページは学校の情報、窓口、事業別のメニュー、テーマ別のメニューに分かれ、事業別のメニューの中に、「学校、教職員、生涯学習、資料・統計、その他」とサブカテゴリーがある。「学校」の中の「授業・学力」「指導資料・報告書等」の中に学校の教員向けの参考資料や手引き、「就学前教育カリキュラム」などの情報と並んで「外国人児童生徒日本語テキスト たのしいがっこう」「日本語指導ハンドブック」が掲載されている。

#### 4. まとめ

オンタリオ州およびトロント市の公のウェブサイトは、外国人がここで生活するということを考えたときに次の点が優れていると思われる。

1. 利用者（子ども、親、先生など）を中心に構成されており、その中に新しい市民（外国人を含む）が想定されている。
2. 教育、福祉行政、教育委員会の方針や制度ばかりでなく、実際の活動のようすが DVD などで紹介されているため、実情がわかりやすく関心を寄せやすい。
3. 施策や方針の根拠となる法律、委員会の報告書、研究論文が掲載されているため、利用者は教育について広く深く学ぶことができる。

基本的な姿勢として、市民に対する啓蒙的、教育的な機能を意識的に取り入れていることが重要だと思われる。日本における CLD 児の母語・日本語育成支援のためのポータルサイトを開発するにあたっては、「ポータル」の機能とともに利用者を意識した構成、オープンな内容、学術的で啓蒙的な側面を含むことが良いサイトの条件となるだろう。

#### 引用文献・引用サイト

武田信子, 社会で子どもを育てる-子育て支援都市トロントの発想, 平凡社新書, 2002

*Statistics Canada (2007)*

<http://www.statcan.gc.ca/tables-tableaux/sum-som/l01/cst01/demo11b-eng.htm>

オンタリオ教育省 (The Ontario Ministry of Education) <http://www.edu.gov.on.ca/eng/>

オンタリオアリーイヤーズセンター (The Ontario Early Years Centre)

<http://www.children.gov.on.ca/htdocs/English/topics/earlychildhood/oeyc/index.aspx>

トロント教育委員会(Toronto District School Board) <http://www.tdsb.on.ca/>

文部科学省 <http://www.mext.go.jp/>

東京都教育委員会 <http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/index.html>